

令和7年度



















佐潟周辺自然環境保全計画評価シート



令和6年4月14日(日)「小鳥さえずる佐潟で春散歩」

佐潟で活動する事業等の令和6年度取り組み評価シート

表. 第4期佐潟周辺自然環境保全計画の目標と取り組み項目一覧

基本的な方針	目標	取り組み項目
【基本的な方針Ⅰ】 生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人との関わりのなかで多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。	目標(1)多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり   	ア 潟固有の水生植物が生息しやすい環境をつくる イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる ウ 外来動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる オ 魚介類が生息しやすい環境をつくる カ ブラックバスなどを入れさせない防止活動を進める キ ゾーニングの手法を用いて守り育てる環境保全方法を検討する
	目標(2)佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全    	ア 緑地帯を保全する イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する ウ 適正な水位管理を実施する エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う
	目標(3)調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進    	ア モニタリング調査を継続して実施する イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する ウ 潟の研究を多面的にすすめる
	目標(4)昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり     	ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する イ 地域文化を発掘、継承し、発信する ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する
	目標(5)福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進   	ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる
	目標(6)佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開  	ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する イ ラムサール条約登録湿地間の連携、ガンカモ類保護ネットワークの構築を行う
【基本的な方針Ⅱ】 先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。		
【基本的な方針Ⅲ】 市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。		

基本的な方針 I



生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人との関わりの中で多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。

目標（1）多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり




取り組み項目：ア 潟固有の水生植物が生育しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
ハスの生育調査	激減したハスの生育状況調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	5月に水質改善と湿地の攪乱、水生植物の発芽促進を目的とした佐潟下潟の水抜きを実施。その際にハス苗の補栽を行った。	ハス苗は板で囲いをした苗が成長し、開花に至った。前年同様、囲いを行わなかったハスはカメ等の被害があり、成長できなかったため、ハスの分布に変化はなし。引き続きカメ等の被害対策や水質改善を行う必要がある。		(公財)新潟県都市緑花センター
エコトーン整備	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	調査および手入れを実施。ヤナギトラノオ、ハンゲショウ等の生育を確認。また、個体数少ではあるが、自然生態観察園でエゾミソハギ、ミズタガラシの生育が確認された。	エコトーン周囲の木が成長し、日照不足になりつつあるほか、種子の供給や土壌の攪乱が不足しているため、目的とした希少植物の個体数が減少している。エコトーン周辺の樹木の枝払いを行う他、種子の供給や攪乱を目的とした佐潟底泥の搬入を行いたい。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、スジマハリイ、シロバナサクラタデ、デンジソウ、ハンゲショウなどは例年通り生育を確認できた。また、個体数少ではあるが、自然生態観察園でシラスゲ、エゾミソハギ、ミズタガラシの生育が確認された。	前年に引き続き、水質改善と攪乱を目的とした水位管理と水抜きを実施。オニバスやミズアオイ、サデクサなどの一年草は未だ個体数小であるため、積極的な保全が必要。水抜きの実施を行った結果、水生植物が数多く発芽したが、すべてカメによる被害を受けた。		(公財)新潟県都市緑花センター
佐潟ハス復活プロジェクト	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 ①ハスの芽出し作業 ②水門ゲートの水位調整を行う ③株分け、トロフネに移し替え ④ハス田塩ビ管敷設、育成棚設置（2カ所） ⑤育てたレンコンを水位の下がった潟に直接移植 ⑥ベットボトルで育てたハス苗を佐潟から汲み上げたドロ入りバケツに移植 ⑦移植したハス苗を金網で囲う（2カ所） ⑧出前授業、ハス田観察会（ハスの実を試食、象鼻杯を試験） ⑨レンコン掘りを行う ⑩中間報告を行う	   	①令和6年4月25日(木) ②令和6年5月13日(月) ③令和6年5月25日(土) ④令和6年5月25日(土) ⑤令和6年6月7日(木) ⑥令和6年6月13日(木) ⑦令和6年6月13日(木) ⑧令和6年9月26日(木) ⑨令和6年10月24日(木) ⑩令和7年2月22日(土)	①51人 ②1人 ③24人 ④24人 ⑤30人 ⑥51人 ⑦7人 ⑧51人 ⑨30人 ⑩50人	ハス田のハスは前年に比べてまばらで細くて小さかった。ハス復活プロジェクトの報告会を2月22日、開催した。「佐潟、上潟、御手洗潟の外來カメを根絶しない限りハスの復活は困難」と題して講演会を開催した。そして今年度の活動報告として①アカミミガメとザリガニ駆除②潟の水を抜いてみた（2年目）③下潟にハスを植えた（2年目）、これら3点について報告した。	ハス衰退の原因として「利用管理の減少」「水質の悪化」「外來生物による影響」が考えられる。アカミミガメなどの捕獲事業が7月31日から始まった。来年度以降も継続事業として期待する。ハスの復活だけでなく、里潟佐潟の再生を目指すことが課題といえる。		佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる



事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
エコトーン整備【再掲】	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	調査および手入れを実施。ヤナギトラノオ、ハンゲショウ等の生育を確認。また、個体数少ではあるが、自然生態観察園でエゾミソハギ、ミズタガラシの生育が確認された。	エコトーン周囲の木が成長し、日照不足になりつつあるほか、種子の供給や土壌の攪乱が不足しているため、目的とした希少植物の個体数が減少している。エコトーン周辺の樹木の枝払いを行う他、種子の供給や攪乱を目的とした佐潟底泥の搬入を行いたい。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、スジマハリイ、シロバナサクラタデ、デンジソウ、ハンゲショウなどは例年通り生育を確認できた。また、個体数少ではあるが、自然生態観察園でシラスゲ、エゾミソハギ、ミズタガラシの生育が確認された。	前年に引き続き、水質改善と攪乱を目的とした水位管理と水抜きを実施。オニバスやミズアオイ、サデクサなどの一年草は未だ個体数小であるため、積極的な保全が必要。水抜きの実施を行った結果、水生植物が数多く発芽したが、すべてカメによる被害を受けた。		(公財)新潟県都市緑花センター

取り組み項目：ウ 外來動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う



事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
条件付特定外来生物防除	本来の生態系維持や食害を受けたと考えられるハスの自生環境を整えるため、アカミミガメやアメリカザリガニの防除を実施する。	  	8月～2月（作業は～10月）	-	8月～10月の間で、下潟内に捕獲罠を10個設置・回収作業を20回実施した結果、アカミミガメが545匹、クサガメが464匹を捕獲できた。捕獲したカメは冷凍処分後、堆肥化を行い、畑の肥料とすることで利活用につなげることができた。	クサガメのみが生育していた1998年頃はハスの食害が目立たなかったことから、次年度以降、捕獲されたクサガメはリリースする。本事業の結果、佐潟全体のアカミミガメ生息数はおよそ1万匹と推定される。食害によるハスの全滅を防ぐためには、毎年1,500匹以上の捕獲を行い、低密度状態を維持する必要がある。		環境政策課

目標（2）佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全




取り組み項目：ア 緑地帯を保全する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
西区佐潟公園樹木芝生等管理業務委託	公園を構成している植物の生理・生態的特徴を十分理解して健全な育成を図り、植物空間の充実・完成をさせ、公園機能を維持するために技術的管理を行う。	 	令和6年5月～令和7年3月	-	令和6年5月10日～令和7年3月14日までの期間に樹木芝生等の維持管理を継続的に実施した。	植物の健全な育成に必要な維持管理を行うことで、公園機能を確保し、公園利用者への環境整備を図った。		西区建設課




取り組み項目：イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
水質調査	佐潟5ヵ所、御手洗潟3ヵ所について毎月1回水質測定を行う。		毎月1回ただし、4月から11月の間は、佐潟上潟・下潟（上・中・下流）の4ヵ所については月2回水質測定を行う。	-	佐潟6ヵ所、御手洗潟3ヵ所について毎月1回水質測定を実施した。	水環境の把握とともに保全のための基礎資料とする。		環境対策課
佐潟再生事業	水路「ど」の再生を実施し、湧水確保及び水質改善を図る。	  	令和6年8月30日から10月11日	-	枯れたヨシ等の堆積による陸地化防止や湧水確保を目的に過去整備した水路「ど」を再生した。併せて地域団体が野鳥観察舎付近のヨシ刈りを実施。	整備直後には湧水箇所を確認した。実施後の採水結果では下潟から逆流の影響が見受けられたが、徐々に数値が安定し始めている。また、栄養塩類（窒素・リン）の潟外排出や浅水域創出による生物多様性の確保、陸地化防止・景観改善のため、ヨシ刈りを継続していく必要がある。ヨシ刈り及び水路「ど」の再生については、湧水地点の調査等を行い、湧水確保及び水質改善効果がより期待できる箇所での実施も検討する。		環境政策課
水門付近堆積物除去	水門前の堆積物を除去し、水質改善等を図る。	  	令和6年4月30日から7月31日	-	水門前～佐潟橋までの堆積物除去を実施。	堆積物除去による水質改善効果を確認するにあたっては、その時期・年の気温や雨量など自然的な環境要因でも変化するため複数年の水位を比較していくことが必要である。次年度は佐潟橋～下潟までの範囲で除去を行う。また、今年度実施した箇所掘削深測定を行うことで、潟内部の堆積物が水門前に行き着くまでの水の流れがあるかを調査する。		環境政策課
身近な水環境の全国一斉調査	世界環境デーに合わせて全国で河川、湖沼の水質調査を一斉に行う。		令和6年6月1週	新潟水辺の会を中心に2名	水質結果は今年も他の河川に較べても新潟市の湖沼の水質が悪く、佐潟水抜き改善効果が薄い。標高の高い御手洗潟の水質悪化を標高の低い佐潟が受けていると思われる。	佐潟・御手洗潟周辺の砂丘地で、生業を営む農家及び、砂丘地農業の漬物工場と一緒に未来の子孫の為、漬物工場からの排水についてを考える場を設ける事が望まれる。		新潟水辺の会

取り組み項目：ウ 適正な水位管理を実施する



事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
水位計目盛替替	佐潟水鳥・湿地センター前に設置している水位計について汚れや剥離により計測に支障があるため、目盛を付け替える。	  	令和6年6月1日（土）	-	常に水に浸かるロッド下部の目盛が汚れや剥離等の経年劣化により計測不可となっていたため、目盛の付け替えを実施。低水位時の水位について、目算ではなく、正確な計測が行えるようになった。	経年劣化を考慮し、正確な水位を計測するためには定期的な管理が必要となる。計測結果は佐潟周辺自然環境保全連絡協議会で報告し、適切な水位管理のための指標とする。		環境政策課

取り組み項目：エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を 含めた広域的な保全を行う

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の開催	佐潟に関わる団体や有識者から出席いただき、佐潟に関する様々な取組みの報告や保全と賢明な活用に向けた検討を行う。	  	令和6年9月5日(木)： 第39回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会 令和7年3月27日(木)： 第40回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会	第39回：9人 第40回：10人 ※市関係各課を除く	令和6年9月5日に第39回自然環境保全連絡協議会を対面形式で開催した。 令和7年3月27日に第40回自然環境保全連絡協議会を対面形式で開催した。	条件付特定外来生物防除に関して、8月に実施したが、アカミミガメの繁殖期であり、かつハスの移植・成長時期でもある5～6月に防除を行うことがハスの自生数及びアカミミガメの捕獲数を増加させる上で最適である。カメ防除と並行して新たにハス囲いを設置することで、ハスの分布拡大を図る。		環境政策課

目標（3）調査・研究結果の有効活用 による自然環境保全の推進

取り組み項目：イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する













事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
新潟県水鳥湖沼ネットワーク等との連携	新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。		令和6年10月～令和7年3月	-	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。		環境政策課
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 （月1回程度）	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、スジスマハリイ、シロバナサクラタデ、デンジソウ、ハングショウなどは例年通り生育を確認できた。また、個体数少ではあるが、自然生態観察園でシラスゲ、エゾミソハギ、ミズタガラスの生育が確認された。	前年に引き続き、水質改善と攪乱を目的とした水位管理と水抜きを実施。オニバスやミズアオイ、サデクサなどの一年草は未だ個体数小であるため、積極的な保全が必要。水抜きの実施を行った結果、水生植物が数多く発芽したが、すべてカメによる被害を受けた。		（公財）新潟県都市緑花センター

基本的な方針Ⅱ



先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。



目標（４）昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟とその周辺地域を核とした 地域づくり

取り組み項目：ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する


事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟ハス復活プロジェクト 【再掲】	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 ①ハスの芽出し作業 ②水門ゲートの水位調整を行う ③株分け、トロフネに移し替え ④ハス田塩ビ管敷設、育成棚設置（2カ所） ⑤育てたレンコンを水位の下がった潟に直接移植 ⑥ベットボトルで育てたハス苗を佐潟から汲み上げたドロ入りバケツに移植 ⑦移植したハス苗を金網で囲う（2カ所） ⑧出前授業、ハス田観察会（ハスの実を試食、象鼻杯を体験） ⑨レンコン掘りを行う ⑩中間報告を行う	   	①令和6年4月25日(木) ②令和6年5月13日(月) ③令和6年5月25日(土) ④令和6年5月25日(土) ⑤令和6年6月7日(木) ⑥令和6年6月13日(木) ⑦令和6年6月13日(木) ⑧令和6年9月26日(木) ⑨令和6年10月24日(木) ⑩令和7年2月22日(土)	①51人 ②1人 ③24人 ④24人 ⑤30人 ⑥51人 ⑦7人 ⑧51人 ⑨30人 ⑩50人	ハス田のハスは前年に比べてまばらで細くて小さかった。ハス復活プロジェクトの報告会を2月22日、開催した。「佐潟、上潟、御手洗潟の外來カメを根絶しない限りハスの復活は困難」と題して講演会を開催した。そして今年度の活動報告として①アカミミガメとザリガニ駆除②潟の水を抜いてみた（2年目）③下潟にハスを植えた（2年目）、これら3点について報告した。	ハス衰退の原因として「利用管理の減少」「水質の悪化」「外來生物による影響」が考えられる。アカミミガメなどの捕獲事業が7月31日から始まった。来年度以降も継続事業として期待する。ハスの復活だけでなく、里潟佐潟の再生を目指すことが課題といえる。		佐潟と歩む赤塚の会
ラコテ赤塚	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。	 	令和6年5月25日(土) 令和6年8月25日(日)	7人 7人	水門下流域の道路沿いの空き缶などを回収した。	ビールの空き缶ボーイ捨てあり。こんなところで誰が捨てるのか。人目につかないように藪の中に押し込んでいるゴミもある。		佐潟と歩む赤塚の会
潟普請・佐潟クリーンアップ活動	水門付近の保全、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。	  	令和6年9月21日(土)～22日(日) ※悪天候により中止	70人（うち中学生20人） ※参加見込み	前線が北陸地方へ南下し、断続的に雨が降る可能性があるため、事前のコンクリート作業が困難と判断した。このため19日午後の時点で潟普請を中止とし、各団体に連絡した。	佐潟水鳥・湿地センターには中止の掲示を行った。また、22日朝には湿地センターに向いて、誤って集合する人がいないか確認した。		佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和7年3月30日(日)	11人	小雨が予想されたため、上潟を散策しながらのゴミ拾いは急きょ中止。懸案となっていた観察舎下に仮置きしていた資材の運び出し作業を行った。			佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：イ 地域文化を発掘、継承し、発信する


事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
ラコテ赤塚 【再掲】	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。	 	令和6年5月25日(土) 令和6年8月25日(日)	7人 7人	水門下流域の道路沿いの空き缶などを回収した。	ビールの空き缶ボーイ捨てあり。こんなところで誰が捨てるのか。人目につかないように藪の中に押し込んでいるゴミもある。		佐潟と歩む赤塚の会

湯普請・佐潟クリーンアップ活動【再掲】	水門付近の保全、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。		令和6年9月21日(土)～22日(日) ※悪天候により中止	70人(うち中学生20人) ※参加見込み	前線が北陸地方へ南下し、断続的に雨が降る可能性があるため、事前のヨシ刈り作業が困難と判断した。このため19日午後の時点で湯普請を中止とし、各団体に連絡した。	佐潟水鳥・湿地センターには中止の掲示を行った。また、22日朝には湿地センターに出向いて、誤って集合する人がいないか確認した。		佐潟と歩む赤塚の会
春の湯普請【再掲】	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。		令和7年3月30日(日)	11人	小雨が予想されたため、上潟を散策しながらのゴミ拾いは急きょ中止。懸案となっていた観察舎下に仮置きしていた資材の運び出し作業を行った。			佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
湯舟体験	湯舟で湖面に繰り出して五感で佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水性植物を観察する。		①令和6年5月6日(月振) ②令和6年6月29日(土) ③令和6年7月21日(日) ④令和6年8月24日(土) ⑤令和6年9月7日(土) ⑥令和6年10月8日(火) ⑦令和6年10月10日(木) ⑧令和6年10月14日(月祝)	①13人 ②12人 ③17人 ④145人 ⑤14人 ⑥赤塚小出前授業 ※雨天中止 ⑦木山小出前授業(5、6年生) ⑧57人	猛暑を避けての早朝湯舟は告知がうまくいっていないのか乗客につながらない。佐潟まつり(8/24)での乗船客数は過去にない数字だった。木山小児童にも湯舟体験の機会を提供して欲しいとの要請を受けて、初めて実施した。	木山小児童は佐潟までの交通手段の確保などで難あり。赤塚中は赤塚小、木山小児童で構成させている。普段から総合学習で佐潟に接している赤小児童は「ラムサール条約」「湿地」「ハス、外来種」などの用語にリテラシーあり。中学校では小学校間のギャップがあるようだ。湯舟のチラシには「湿地都市Niigata」などのロゴを追加し市民への啓発を図った。当会でも新潟市公認里潟ガイドが誕生した、ガイドに活かしたい。		佐潟と歩む赤塚の会


取り組み項目：エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟ブランディングプロジェクト	佐潟周辺地域が2040年においても「住み心地がよいまち」であるために、佐潟をはじめとする地域資源を活用し、地域で稼ぐ仕組みづくりと「ひとつくり」に再投資する地域循環モデルの構築を目指す。		令和6年9月～11月 キーパーソンヒアリング：32名 令和6年10月17日(木) 潟端会議vol.1 令和6年12月18日(水) 潟端会議vol.2 令和7年3月13日(木) 潟端会議vol.3	潟端会議 延べ43名参加	・ブランドビジョンの策定 ・アクションプランの策定 ・ブランディングの気運醸成	ブランド基盤を築く「土台づくりの年」として、地域資源の掘り起こしと整理、ビジョンの策定、キーパーソンとの関係構築に成功。今後は実装段階に進むにあたり、より幅広い層へのビジョンの浸透を図るため、発信と共感できる機会の創出が求められる。		佐潟と歩む赤塚の会

基本的な方針Ⅲ
市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。









目標（５）福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進

取り組み項目：ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
新潟県水鳥湖沼ネットワーク等との連携【再掲】	新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。		令和6年10月～令和7年3月	-	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。		環境政策課

目標（６）佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開

取り組み項目：ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟自然散歩・ 佐潟探鳥散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、 野鳥や植物、昆虫を観察する。		令和6年4月13日（土） 令和6年4月27日（土） 令和6年5月11日（土） 令和6年5月25日（土） 令和6年6月8日（土） 令和6年6月22日（土） 令和6年7月13日（土） 令和6年7月27日（土） 令和6年8月10日（土） 令和6年8月24日（土） 令和6年9月14日（土） 令和6年9月28日（土） 令和6年10月12日（土） 令和6年10月26日（土） 令和6年11月9日（土） 令和6年11月23日（土） 令和6年12月14日（土） 令和6年12月28日（土） 令和7年1月11日（土） 令和7年1月25日（土） 令和7年2月22日（土） 令和7年3月8日（土） 令和7年3月22日（土）	292	佐潟ボランティア解説員の案内で 佐潟周辺を散策し、野鳥や植物、 昆虫を観察した。 2月8日（土）大雪のため中止とし た。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きなが ら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地セン ター
小鳥さえずる佐潟で春散 歩	ボランティア解説員の案内で春の佐潟を散策 し、野鳥を観察する。		令和6年4月14日（日）	10	佐潟ボランティア解説員の案内で 佐潟周辺を散策し、春の野鳥や植 物を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きなが ら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地セン ター
佐潟探検隊（さかたん）	小学生に佐潟で自然体験を通し、自然豊かな 佐潟の魅力を感じてもらうため通年企画 ①ハスの学習 ②プランクトン学習 ③自然体験（ネイチャーゲーム） ④冬鳥観察・終了式		①令和6年5月26日（日） ②令和6年8月3日（土） ③令和6年9月8日（日） ④令和6年11月16日（土）	9	佐潟と歩む赤塚の会や外部の講 師、ボランティア解説員の指導や 案内でハス移植、水辺の生き物観 察、ネイチャーゲーム、冬鳥の観 察を行った。	全4回の体験を通して、春夏秋冬の佐潟の自然 の豊かさを体験してもらえた。		佐潟水鳥・湿地セン ター
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、 初夏の植物を観察する。		令和6年6月2日（日）	12	佐潟ボランティア解説員の案内で 佐潟周辺を散策し、植物を観察し た。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きなが ら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地セン ター
水辺の生きもの観察教室	ボランティア解説員の案内で佐潟の水辺の生 きものを観察する		令和6年6月29日（土）	13	小学生を対象に、佐潟ボランティ ア解説員の案内で水辺の生きもの を採集し、観察した。イベント終 了後、採集した生きものは潟へ戻 した。	佐潟公園で水辺の生きものを採集し、観察 したり解説を聞きながら自然に親しみ、自然 豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地セン ター
夏休み佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で夏の佐潟の昆虫 を観察する。		令和6年7月14日（日）	20	昆虫はかせネットワーク鈴木誠治 先生の案内で夏の佐潟の昆虫を採 集、観察した。	佐潟公園のさまざまな昆虫を採集、観察、リ リースするという体験を通し、楽しみつつ学 習できた。		佐潟水鳥・湿地セン ター

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
秋の佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で秋の佐潟の昆虫を観察する。		令和6年10月5日（土）	11	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や昆虫を観察した。	早春の植物や野鳥などの自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
秋の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、植物を観察する。		令和5年10月7日（土）	11	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や野鳥を観察した。	早春の植物や野鳥などの自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
冬鳥ウオッチング	ボランティア解説員の案内で佐潟の冬鳥を観察する。		令和6年12月1日（日）	11	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟文化祭	佐潟に関する絵、写真、書、俳句等の作品を募集し展示する。		令和7年2月1日（土）～ 令和7年2月24日（月）	19	応募者数19名、応募点数30作品（写真17点、絵画7点、工作2点、手芸1点 短歌等3点）	佐潟に魅力を感じている佐潟リピーターや来館者に作品発表の場を提供した。来館者に佐潟の魅力発見や癒しの場として楽しんでもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊・サカタン	ハスの移植、潟舟を体験する。 （ハス再生について学習し、潟に入って移植作業）		令和6年5月26日（日）	小学生7人	第1回のテーマは「ハスについて学ぼう」講師役で協力要請があった。	水位が低下した佐潟でメダカ、キンブナなどを観察できた。種子から発芽したハスも多数観察できた。参加した児童はハスの発芽作業を実施。パケツ苗として越冬させた。2025年春、さかたん事業であらたに設置した木枠に移植できた。		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟を活用した健康・スポーツ事業	西区ウォークの会場を「佐潟」に移し実施するなど、佐潟の自然に触れながら運動することで、佐潟を知ってもらおう新たなきっかけを提供する。		令和6年11月16日（土）	14	ロングコース（全周コース）、ショートコース（下潟一周コース）の2コースで開催。白鳥の飛来シーン体験の都合もあり、午前7時～9時の早朝開催。	参加者は概ね満足していただけたようだが、早朝という時間帯と公共交通が制限される会場であることで参加者が限られたこと、佐潟で開催する意味を踏まえ、水鳥や佐潟のガイドを求める声もあったことなどについて、次年度に向けて改善していく。		西区地域課